和泉地区「和泉メディア棟の概要について」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学情報科学センター 公開日: 2009-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山口, 康夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/4305

〔論　壇〕

和泉メディア棟の概要について

和泉システム課長　山口　康夫

２００５年の年明け早々、待望の和泉メディア棟（２００４年７月１３日開催、常勤理事会で正式名称に決定）が竣工になり、４月から本格的にオープンする予定である。これは、和泉キャンパスにおける６学部の新しい教養教育の幕開けとなる象徴の建物といっても過言ではない。

明治大学広報第５４３号（８月１日発行）では、和泉メディア棟のコンセプトとして＜・・・「最先端のマルチメディア機器を利用した新しい教育の実現、小教室を中心とするコミュニケーション型教育の実現、情報設備と視聴覚設備を統合した自学自習システムの充実、やさしさに配慮した人と環境との調和」など・・・＞と紹介されている。更に言えば、和泉システム課事務室がひとつになる（以前は視聴覚棟と第一校舎地下に分散）ことで、２００１年度から実施している利用者支援のための「ＡＶ・ＩＴサポートサービス」（ワンストップサービス）の一層の充実が図れることになる。

同棟は地上７階・地下１階・鉄骨造、延床面積１３，２００㎡で、和泉図書館の西側に位置しているが、和泉キャンパスの正門を通った瞬間、否応なしに目に飛び込んでくる建物である。その内容としては、上述のコンセプトのもと、定員４０名以下の小教室６３室（この内、机・椅子を固定せず、授業内容に応じたレイアウトができる教室を４３室設置）、定員１９５名～２４０名の中教室６室、新規のＣＡＬＬシステム機能や従来の情報教室・情報実習室の機能を備えたメディア教室７室・メディア実習室４室、最新のデジタル機器・設備を備えバージョンアップしたメディアライブラリー（旧ＡＶライブラリー）、和泉システム課事務室、教員室等となっている。

これら小教室・中教室・メディア教室における各種メディア機器・設備については、ビデオ利用等ができる簡易なものから、学生用パソコンなども装備されたフルスペックのものまで、バリエーションに富んだ環境が整備されている。また同棟の大きな特徴のひとつとしては、明治大学に初めて導入されるＣＡＬＬシステムの機能があげられる。これは、コンピュータとＬＬ装置を合わせた機能を持ち、自学自習ができるシステムであり、メディア教室１室とメディア実習室２室に設置されている。

以上、大まかに概要を説明したが、この和泉メディア棟が今後、十二分に利活用され続けていくことが最も重要である。そのためには、上述した支援体制の一層の充実をはじめ、同棟の効率的な運用並びに学部間の調整などの役割を担うであろう和泉マルチメディア委員会の役割が非常に大きい。それは、現在検討されている、明治大学全体の教育の情報化構想に伴う組織改編や和泉キャンパスのグランドデザインの策定などを受けることによって、実現・推進されていくことになる。

〔論　壇〕

次期システムの策定にあたって

生田システム課長　小笠原　渉

生田地区の情報処理教室，スーパーコンピュータ，サーバ，ネットワークなど非常に大きな教育研究システムを情報科学センター生田分室（生田システム課）で管理運営している。（一部，学部固有のコンピュータ実習室もあるようだが。）

この生田キャンパス教育研究システムが，スーパーコンピュータの廃止を前提に２００５年３月にレンタル契約を終え，４月から新たなシステムを導入し，稼動する予定となっている。

来年度のことであり，予算については決定はしていないが，現在計画中の次期システムの提案をすべく仕様書をはじめ，関係書類の作成作業を現場ＳＥ（生田システム課員）を中心に行なっている真っ只中であり，やっとまとまりつつある。

前回のリプレイス時との大きな違いに業者選定がある。今までの業者特命の実績を競走入札に変更したことである。そこで当課では現在までに，仕様書作成に先立ち競走入札にかけるべく現システム委託業社に他２社を加えた３社に次期システム概要書（生田システム課作成）を示した結果である業者から得られた提案書も参考としながら，システムの最適化に向けて検討を行なってきた。その過程では業者からの魅力的な提案等も目にし，課員の刺激と勉強になったのでは，という副産物が得られたという気がする。

来年度の本学予算策定についての方針が聞こえる中，その恐ろしいほどの，また厳しいほどの削減案振りを耳にし，唖然，呆然としながら，このリプレイスに向けて，無駄なものを省くため，センター副所長（生田担当）も交え意見をぶつけあい，細かな見直しを行い，現・次期システムについて過ぎるほどの精査を行い，スリム化してもサービスの低下が極力起こらないような内容の提案にまとめる努力を続けてきた。

もうじきこの仕様書を含めた関連書類等を完成させ，理事会に対して，次期に向けてのシステムの更新を申請する段となる。私や副所長をはじめ，課員にもそれぞれの考えがあり，個々には，必ずしも納得していないという心残りはあるかもしれないが，やっとまとまりつつある。

私自身は，現行システムや予算等の制約を受けながらもこの次の更新，さらにその先の更新といように，生田地区のこれからのシステムのあり方を考える第一歩であるという精神を注入した提案であると確信している。そしてユーザ（主に生田地区の学生，教職員）にとってよりよいシステムになるよう今後も誠心誠意業務に当たっていきたい。

最後に誌上で私情を述べることをお許し願いたい。「当然，業務である」「仕事だから当たり前」ということは重々承知の上で，これをまとめ上げてくれた課員，貴重な助言等をいただいた鎌田副所長をはじめとした関係各位に感謝を申し上げたい。

ありがとうございました。